

環境省

「平成 23 年度びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

『東日本復興支援郡山市容器リユースモデル実証事業』

報告書

平成 24 年 2 月

郡山市容器リユース推進協議会

目次

挨拶文

郡山市のびんリユースの取組みにあたって p 1
郡山市容器リユース推進協議会
座長 沼田 大輔 (福島大学 経済経営学類准教授)

1. 郡山市びんリユースの取組みの経過 p 2 ~ p 11
2. 取組みの内容と結果及び成果 p 12
3. 取組みの分析と評価 p 12 ~ p 13
4. 今後の課題 p 14
5. 次年度に向けて p 14 ~ p 15
6. まとめにあたって p 15
7. 資料
 - 1) 一般消費者向けアンケート実施報告
 - 2) 消費者向けアンケート単純集計結果
 - 3) 郡山モデルの評価について
 - 4) 消費者向けアンケート用紙
 - 5) 郡山地区 R720ml びん流通システム図
 - 6) R720ml びん出荷に関する資料
 - 7) R720ml びん回収に関する資料
 - 8) R720ml びん及びレンタルP箱に関する資料
 - 9) イオン郡山フェスタ店における郡山モデルのポスター掲示の様子
 - 10) 第三回郡山市容器リユース推進協議会 議事録
 - 11) Rマーク付 720ml と 12 本入 P 箱写真
 - 12) 協議会で作成した R720ml びんのポスター

郡山市のびんリユースの取組みにあたって

廃棄物管理の分野において「3R」(Reduce(廃棄物の減量)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化))の重要性が言われて久しい。このうち、Recycleについては、日本では多くの製品で行われ、高いリサイクル率を誇っているものもある。一方で、一般に、Reduce、Reuse(最近、これらは「2R」と呼ばれている)は、Recycleに比べて、環境負荷が低いと言われている。しかしながら、日本では、この2Rは、十分に行われているとは言い難い。このため、昨今の日本では、この2Rをいかに進めていくかが課題になっている。この2Rの中でも、Reuseは、生産者・流通関係者・回収業者など、調整の必要な関係者が多いことから、その実施は難しい。このため、Reuseの取組は特に遅れているのが現状である。

本報告書における郡山モデルの取組は、この現状を打破すべく、郡山市容器リユース推進協議会を中心に行われているものである。この郡山モデルは、2010年11月に、郡山市容器リユース推進会議準備会を開催して以降、途中で東日本大震災による中断を余儀なくされながらも、紆余曲折を経つつ行われてきた。本報告書は、これまでの郡山モデルの取組を、本取組が2011年度の環境省の実証事業の採択を受けた期間(2011年9月13日から2012年2月末日まで)について、まとめたものである。

郡山モデルにおける特徴はいくつか挙げられるが、その特徴の一つが、対象容器が、日本酒の四合瓶ということである。日本酒においては、今も多くの瓶が使われている。この瓶の中でも、持ち運びの手軽さ等の観点から、日本酒の瓶における四合瓶のシェアは大きい。そして、瓶は、うまく洗浄することができれば、Reuseをおこなうことができる。特に、「Rマーク」と呼ばれる刻印が付いている瓶は、規格が統一された瓶であり、洗浄をおこないやすく、Reuseを意図した瓶であると言える。しかしながら、Reuseについての特性は、消費者にはほとんど認知されておらず、現在、四合瓶は、「Rマーク」付きの四合瓶も含めて、Recycleが主流である。本取組ではこの点に着目し、Rマーク付きの四合瓶を、いかにしてReuseのルートに載せることができるのかについて、様々な関係者の協力のもと、実際に回収と告知をおこなうなかで、検討を重ねた。さらに、本取組では、かねてから環境省の検討会で安井座長が提唱されていた慈善の精神を、郡山モデルの仕組みによって集まった使用済みびんの本数に応じて、東日本大震災で被災された方々に寄付するという仕組みとして組み込んだ点も特徴的であり、この点の検討をおこなうことも可能である。

本報告書が、今後のReuseのあり方を検討する一助となることを切に願っている。

2012年2月29日

郡山市容器リユース推進協議会 座長 沼田 大輔
福島大学 経済経営学類 准教授

1. 郡山市びんリユースの取組みの経過

平成 23 年度環境省「平成 23 年度びんリユースシステム構築に向けた実証事業」を『東日本復興支援郡山市容器リユースモデル実証事業』として取組みましたので、以下のように報告します。

環 境 省「平成 23 年度びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

○対象事業名

東日本復興支援「郡山市容器リユースモデル実証事業」

○事業概要

*学識者、酒造組合、酒販卸・小売組合、びん商、市民(生協、婦人会など)が一同に介す協議会を開催。リユースシステム構築に向け、情報共有・推進に向けての検討を進める。

*Rマーク付 720ml びんを対象とし、量販店、飲食店などから回収する。流通時に「容器+段ボール」から「容器+クレート(P箱)」と仕様を変更する取組。

*Rマーク付 720ml びん売却代金の一部を東日本大震災復興に寄付をする。

○対象びん

Rマーク付 720ml びん

○実施地域

郡山市を中心に福島県全域

○申請代表者

郡山市容器リユース推進協議会

○連絡窓口(協議会事務局)

福島容器株式会社

所在地 福島県郡山市笹川 1-141 TEL 024-945-1945

○応援団体

環境省、福島県、郡山市、福島県消費者団体連絡協議会、福島県酒造協同組合、福島県酒販組合、福島県小売酒販組合連合会、福島県生活協同組合連合会、福島県再生資源商工組合、日本リユースびん普及協会、ガラスびんリサイクル促進協議会、びんリユース推進全国協議会、日本P箱レンタル協議会、全国びん商連合会、東北びん商連合会

郡山市容器リユース推進協議会メンバー(順不動、敬称略)

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
委員	赤穂 正法	郡山市役所生活環境部 清掃課ごみ指導係係長
〃	今川 敏夫	〃
〃	阿部 淳	福島県酒造協同組合 専務理事
〃	渡辺 捷栄	福島県清酒流通協同組合理事長、(有)渡辺酒造本店会長
〃	山田平四朗	郡山酒造協同組合理事長、若関酒造(株)社長、県議

〃	山口 哲司	〃 副理事長、笹の川酒造(株)社長
〃	山口 恭司	〃 睦会会長、 〃 専務
〃	山口 哲行	福島県卸売酒販組合副理事長、福島県南酒販(株)社長
〃	今泉 浩之	福島県南酒販(株)部長
〃	川瀬 成人	福島県小売酒販組合連合会会長、(株)川瀬酒販社長
〃	本田 剛一	郡山小売酒販組合理事長、本田亀雄商店社長
〃	星 サイ子	福島県消費者団体連絡協議会会長
〃	佐藤 一夫	福島県生活協同組合連合会専務理事
〃	安齋 雄司	生活協同組合パルシステム福島専務理事
〃	影山 敏宏	福島県再生資源商工組合郡山支部長、(株)郡資社長
〃	宮永 真彦	全国びん商連合会会長代理、(株)宮永社長
〃	大日方輝育	東北びん商連合会専務理事、(株)仙台真田社長
〃	会田 一雄	〃 福島県支部長、(株)アイタ社長
〃	陳野 重直	〃 会員、郡山市陳野商店社長
〃	中村 潤	日本P箱レンタル協議会会員、(株)フーズコンテナー部長
〃	西島 芳郎	〃 新日本流通(株)レンタル事業部課長
〃	徳山 成規	〃 (株)宝永エコナJCR事業部次長
〃	西沢 明男	P箱メーカー、三甲(株)郡山営業所長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長
議事録員	原口 春海	福島大学大学院生
〃	富岡 正充	〃
オブザーバー	幸 智道	ガラスびんリサイクル促進協議会事務局長
〃	加山 俊也	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員
〃	今堀 洋子	追手門学院大学経済学部 准教授

活 動 記 録

I. 第一回郡山市容器リユース推進協議会

○開催日時：平成23年9月13日(火)午後1時30分～午後4時30分

○開催場所：福島容器(株)2階会議室

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
委員	渡辺 捷栄	福島県清酒流通協同組合理事長、(有)渡辺酒造本店会長
〃	山田平四朗	郡山酒造協同組合理事長、若関酒造(株)社長、県議
〃	今泉 浩之	福島県南酒販(株)部長
〃	本田 剛一	郡山小売酒販組合理事長、本田亀雄商店社長
〃	影山 敏宏	福島県再生資源商工組合郡山支部長、(株)郡資社長
〃	宮永 真彦	全国びん商連合会会長代理、(株)宮永社長
〃	大日方輝育	東北びん商連合会専務理事、(株)仙台真田社長
〃	会田 一雄	〃 福島県支部長、(株)アイタ社長
〃	中村 潤	日本P箱レンタル協議会会員、(株)フーズコンテナー部長

〃	西沢 明男	P箱メーカー、三甲(株)郡山営業所長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長
議事録員	原口 春海	福島大学大学院生
アドバイザー	幸 智道	ガラスびんリサイクル促進協議会事務局長

2. 決議事項等

- ①環境省「びんリユースモデル実証事業」正式に認定(平成23年9月13日)の報告
- ②東日本大震災により中断していた「郡山市容器リユース推進準備会」の再開を決定
- ③会の名称を「推進準備会」より「推進協議会」に変更
- ④PRポスターのデザイン案を提案
- ⑤Rマーク付720mlびん新流通案の提案
- ⑥インセンティブ(復興支援1円/本)の決定
- ⑦今後のスケジュール確認

II. 事務局会議

○開催日時：平成23年10月4日(火)午後2時～午後4時

○開催場所：福島容器(株)2階会議室

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

2. 議題等

- ①第一回推進協議会の議事録確認
- ②Rマーク付720mlびん新流通案の決定
- ③PRポスターデザイン案の決定、新聞広告(民報、民友)デザイン案提示
- ④インセンティブのまとめ
- ⑤酒類購入者へのアンケート活動の説明(福島大学沼田研究室)
- ⑥実証事業に係る経費計上の件
- ⑦仕組み評価データの検討
- ⑧今後の展開スケジュールのまとめ
- ⑨第二回推進協議会の議題検討

III. 会議打ち合わせ

○開催日時：平成23年10月15日(土)午前9時30分～午後3時30分

○開催場所：福島大学沼田研究室

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長
議事録員	原口 春海	福島大学大学院生

2. 議事内容

- ①10/17 第二回推進協議会の議事内容の確認
- ② " 参考資料の確認
- ③ " 会議進行の確認

IV. 第二回郡山市容器リユース推進協議会

○開催日時：平成 23 年 10 月 17 日(月)

○開催場所：福島容器(株)2 階会議室

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
委員	滝沢 俊一	郡山市役所生活環境部 清掃課ごみ指導係 主査
"	渡辺 捷栄	福島県清酒流通協同組合理事長、(有)渡辺酒造本店会長
"	山口 恭司	" 睦会会長、" 専務
"	今泉 浩之	福島県南酒販(株)部長
"	星 サイ子	福島県消費者団体連絡協議会会長
"	影山 敏宏	福島県再生資源商工組合郡山支部長、(株)郡資社長
"	会田 一雄	" 福島県支部長、(株)アイタ社長
"	陳野 重直	" 会員、郡山市陣野商店社長
"	中村 潤	日本P箱レンタル協議会会員、(株)フーズコンテナー部長
"	西沢 明男	P箱メーカー、三甲(株)郡山営業所長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長
議事録員	原口 春海	福島大学大学院生
オブザーバー	富岡 正充	"
"	加山 俊也	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員
"	井田 剛	福島容器(株)部長

2. 決議事項等

- ①第一回推進協議会議事録の確認
- ②PRポスターの発表⇒文章、応援団体の名称・追加に変更あり⇒福島県・郡山市に掲載許可の打診⇒10 月末完成・発送を目指す
- ③新聞掲載(11 月 11 日、民報・民友)の発表⇒ポスター同様の変更あり⇒ポスターとの内容の違いを説明(使用蔵元掲載等)
- ④R マーク付 720m l びん流通システム、復興寄付金の説明
- ⑤R マーク付 720m l びん流通に関するデータ収集について⇒出荷数量、回収数量
- ⑥消費者アンケートの実施要請⇒イオン
- ⑦今後の活動スケジュール検討
- ⑧11/14 環境省シンポジュームの説明
- ⑨市広報への掲載、小売店へのPR、消費者団体へのPR などが今後の課題

V. 郡山市集団回収協力会理事会 参加

- 目 的：町内会、子供会、など集団資源回収業者への説明会
- 開催日時：平成 23 年 10 月 25 日(火)午後 6 時～午後 8 時 30 分
- 開催場所：居酒屋 岬

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

及び、先方理事 15 名

2. 会議内容

- ①R マーク付 720m l びん 紹介
- ② " 流通システムの説明
- ③ " ポスター小(A4 サイズ)作成提案あり⇒事務局持ち帰り
- ④各会員(各地区町内会、子供会など集団回収業者)への周知徹底をお願い

VI. イオンリテール(株)東北カンパニー 訪問

- 目 的：イオン店舗における消費者アンケート実施のお願い
- 訪問日時：平成 23 年 10 月 31 日(月)午後 1 時～午後 2 時 30 分
- 訪問場所：宮城県仙台市 イオンリテール(株)東北カンパニー総務部
広報・環境社会貢献 鈴木茂伸氏

1. 訪問者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

2. 訪問内容

- ①郡山市容器リユース推進協議会 活動の説明
- ②郡山市内のイオン店舗における消費者アンケート活動実施のお願い
- ③空びん・P 箱の回収状況の確認
- ④イオン郡山フェスタ店での開催を打診して下さるとの回答を頂く

VII. P R ポスターの配布

- 作成した P R ポスターの種類
- ①R マーク付 720m l 大型カラーポスター 10,000 枚
- ②A4 チラシ(①の縮小版) 2,000 枚
- 配布期間：平成 23 年 11 月 2 日(水)～11 月 10 日(木)
- 追加配布は随時行う

1. 大型 P R ポスターの主な配布先(カッコ内は配布枚数)

- ①酒造関係---福島県酒造協同組合(200)、各酒造メーカー(300)
- ②消費者団体---福島県生活協同組合連合会(50)、福島県消費者団体連絡協議会(50)

- ③酒類卸---福島県南酒販(200)、福島県酒類卸(200)、マープ森(200)、ボーキ佐藤(100)、カメイ郡山支店(100)、東北国分(100)、キャスター商事(50)、会津酒類卸(50)、常磐酒類卸(50)
 - ④小売店---福島県小売酒販組合の本部(20)、12支部(3800)
 - ⑤業務専門店---7店(200)
 - ⑥再生資源業界---郡山市集団回収協力会(200)、郡山市再生資源協同組合(50)、福島県再生資源商工組合(200)
 - ⑦後援団体---日本リユースびん普及協会、ガラスびんリサイクル促進協議会、全国びん商連合会、ガラスびんリユース推進全国協議会、日本P箱レンタル協議会など(合計200)
 - ⑧イベント会場---イオン郡山フェスタ店アンケート、福島県小売酒販組合連合会総会、環境省シンポジウム、郡山町中フェスタ、など(合計100)
 - ⑨製びんメーカー、P箱メーカーなど関連企業(合計200)
 - ⑩郡山市など地方自治体、その他団体等(200)
2. A4チラシの主な配布先(カッコ内は配布枚数)
- ①郡山市集団回収協力会(500)、シンポジウム(100)、イオンアンケート(200)、酒類卸・小売店(400)、その他(200)

VIII. 新聞広告掲載

- 掲載日：平成23年11月11日(金)
- 掲載新聞：福島民報、福島民友の各朝刊1面サイズ
- 広告費用：日本リユースびん普及協会様ご協賛

IX. 平成23年11月14日(月)キャンペーン スタート

- 1. Rマーク付720mlびん PRキャンペーン活動スタート
- 2. 環境省主催「びんリユース推進シンポジウム」に参加
 - ①平成23年11月14日13.30~16.30 郡山ビューホテルアネックスにて
 - ②当会より沼田座長、伊藤副座長がパネリストとして参加
郡山モデルの紹介をする
 - ③当会委員も多数傍聴した
- 3. 福島県小売酒販組合連合会 全体会議 に出席
 - ①平成23年11月14日 15.30~16.30 福島市 ホテル大鳥
 - ②当会より参加者

役 職	氏 名	所 属
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

- ③議事の中に「郡山市容器リユース推進会議について」を入れてもらい、内容説明・資料配布

X. イオン郡山フェスタ店消費者アンケートの打ち合わせ

1. 第一回打ち合わせ

① 当会より参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
議事録員	原口 春海	福島大学大学院生

②開催日時・場所：平成23年11月20日(日)午前11時～ イオン郡山フェスタ店にて

③イオン様参加者：鈴木本部マネージャー、石川店長、副島販促課長

④平成23年12月3、4、10、11の4日間実施許可をいただく

実施コーナー、什器、POP等 具体的な指示をいただく

2. 第二回打ち合わせ

① 当会より参加者

役 職	氏 名	所 属
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

②開催日時・場所：平成23年11月21日(月)午後2時～ イオン郡山フェスタ店にて

③イオン様参加者：副島販促課長

④Rマーク付720mlびんサンプル、PRポスター、FC12P箱提供

回収についての打ち合わせ⇒当面は福島容器にて直接回収とする

XI. 消費者アンケート活動(イオン郡山フェスタ店)

○開催日時：平成23年12月3、4、10、11日の4日間

午前10時～午後5時30分

○ 当会より参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

○アルバイト――福島大学生・大学院生 6人×4日間＝延べ人数24人

アルバイト代を含むアンケート活動経費は別途集計

1. 主な内容

①アンケート対象者は、「日本酒に限らず全ての酒類購入者」。四日間で350以上回収

②Rマーク付720mlびんのPR活動も同時に行う(酒類コーナー、中央通路テーブル)。POP、A4チラシ、びんサンプルにて対応。

③抽選により郡山の地酒を10名様(720ml×2本セット)にプレゼント

2. アンケート内容は福島大学沼田研究室にて作成。事務局にて用紙印刷

3. アンケート活動、実績については沼田座長のレポートを参照

XII. 事務局会議

○開催日時：平成23年12月19日(月)正午～

○開催場所：福島市

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
議事録員	原口 春海	福島大学大学院生

2. 会議内容

- ①イオン郡山フェスタ店 アンケート活動の報告
- ②実証実験の中間報告に関する打ち合わせ(事務局高野より報告資料あり)

XIII. 事務局会議

○開催日時：平成24年1月24日(火)午後2時～

○開催場所：福島容器(株)2階会議室

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

2. 会議内容

- ①実証事業活動記録、実績の確認
- ②現状の課題について
- ③第三回推進会議の議題決定
- ④活動経費の打ち合わせ
- ⑤環境省酒店マップの件
- ⑥今後のスケジュール

XIV. 第三回郡山市容器リユース推進協議会

○開催日時：平成24年2月15日(水)

○開催場所：福島容器(株)2階会議室

1. 参加者(予定)

役 職	氏 名	所 属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
委員	阿部 淳	福島県酒造協同組合 専務理事
〃	渡辺 捷栄	福島県清酒流通協同組合理事長、(有)渡辺酒造本店会長
〃	山口 哲司	〃 副理事長、笹の川酒造(株)社長
〃	本田 剛一	郡山小売酒販組合理事長、本田亀雄商店社長
〃	星 サイ子	福島県消費者団体連絡協議会会長
〃	影山 敏宏	福島県再生資源商工組合郡山支部長、(株)郡資社長
〃	宮永 真彦	全国びん商連合会会長代理、(株)宮永社長

〃	大日方輝育	東北びん商連合会専務理事、(株)仙台真田社長
〃	会田 一雄	〃 福島県支部長、(株)アイタ社長
〃	陳野 重直	〃 会員、郡山市陣野商店社長
〃	中村 潤	日本P箱レンタル協議会会員、(株)フーズコンテナー部長
〃	西島 芳郎	〃 新日本流通(株)レンタル事業部課長
〃	徳山 成規	〃 (株)宝永エコナJCR事業部次長
〃	西沢 明男	P箱メーカー、三甲(株)郡山営業所長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長
議事録員	富岡 正充	福島大学大学院生
アドバイザー	加山 俊也	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員
〃	今堀 洋子	追手門学院大学経済学部 准教授
〃	幸 智道	ガラスびんリサイクル促進協議会 事務局長

2. 決議事項等

- ①実証事業活動記録、数値実績の報告
- ②支出報告書について
- ③今年度(3月末)活動スケジュール
- ④イオン郡山フェスタ店アンケート活動の報告
- ⑤郡山の地酒プレゼント当選者発表報告
- ⑥リターナルびんナビへの登録について
- ⑦環境省酒店マップについて
- ⑧環境省の成果発表会について
- ⑨現状の問題点と課題
- ⑩寄付金について
- ⑪次年度は「福島県容器リユース推進協議会」に名称変更予定

X V 報告書まとめ会議

○開催日時：平成24年2月23日(木)午後1時～午後5時

○開催場所：福島容器(株)2階会議室

1. 参加者

役 職	氏 名	所 属
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

2. 実証事業の報告書のまとめ及び点検

- ①事業報告書
- ②支出報告書
- ③成果発表会資料(沼田座長が出張中のため3月に実施予定)

X V. 事務局会議(予定)

○開催日時：平成24年3月6日午後2時～午後4時

○開催場所：福島容器(株)2階会議室

○環境省「平成23年度びんリユースシステム構築に向けた実証事業」の終了
⇒平成24年2月末

1. 参加者(予定)

役職	氏名	所属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	東北びん商連合会会長(福島容器(株)社長)
事務局長	小沢 一郎	びんリユース推進全国協議会 事務局長
事務局員	高野 均	福島容器(株)部長

2. 実証事業の取りまとめ

- ①実証事業報告書の確認：2月29日提出締切
- ②支出報告書の確認：2月29日提出締切
- ③成果発表会(3月16日)での発表資料の確認：3月9日提出締切

3. 寄付金の取り扱いについて

4. 次年度の活動について

XVI. 成果発表会(予定)

○開催日時：平成24年3月16日(金) 午前10時～正午

○開催場所：東京都千代田区 大手町サンスカイルーム E会議室

1. 参加者(予定)

役職	氏名	所属
座長	沼田 大輔	福島大学経済経営学類 准教授(博士)
副座長	伊藤 明人	福島容器(株) 代表取締役社長

2. 発表会の正式名称

「第7回我が国における びんリユースシステムの在り方に関する検討会」

XVII. 寄付金についての検討会(予定)

○詳細は未定です

X 福島県消費者団体連絡協議会の活動報告

1. 平成23年12月17日～18日

ハーモニーステーション郡山中町にて、R-720mlびん展示PRを実施

2. 平成24年3月1日～3月31日

郡山市役所西庁舎にてR-720mlびん展示PRを実施予定

3. 平成24年4月以降

福島県自治会館にてR-720mlびんの展示PRを実施予定

2. 取組みの内容と結果及び成果

平成 23 年度の郡山市容器リユースの取組みをまとめると次のように表にまとめることができる。

課題を大きく以下の 5 つにし、実績と今後の課題と整理してみた。

課題	平成 23 年度実績	今後の課題
1. リユース推進体制の確立	メーカー～販売者～消費者への一連の関係主体一同が会議に参加し、意見を交わした。	郡山市→福島全域への推進体制の強化
2. リユースキャンペーンの実施	3 ヶ月の短い期間でしたが実証キャンペーンに取り組んだ。	キャンペーン期間の継続と地域でのイベントの検討
3. メーカー（蔵元）の参加	約 60 蔵元が稼動する中で、33 の蔵元が R 720 びんを使用し、販売した。	・ R びん使用メーカーの拡大 ・ 再使用びんの拡大
4. 回収拠点体制の確立	4 つの回収拠点到整理した。①業務用での回収 ②資源回収拠点での回収、③消費者の販売店への返却、④自治体回収	・ 各拠点での回収の評価・分析による対策の検討 ・ 回収拠点の比較検討
5. 消費者アンケートの実施	359 枚のアンケートを回収した。	R びん、非 R びんの比率は半々なので、今後は R びんの PR がカギとなる。

※なぜ R びんが資源の循環にもなり、環境にも良く、メーカー、販売者、消費者、自治体などとの共同の取組み（コラボレーション）になり、コミュニティービジネスにつながるのかなどの案内版を作成し、多くの取組みに発展させることが必要であると思われる。

3. 取組みの成果の分析と評価

1) 郡山リユース取組みの成果は何かについて、以下の 3 点と考えます。

- ①これまでの実証とは違う、大きなリユースの取組みになったか。
- ②その取組みが今後のリユースの取組みへの発展につながる要素になっているのか。
- ③具体的に、「製造～流通～販売～消費～返却～再使用」のどこに成果があり、どこに課題があるのか、そしてその課題はどのようにすることにより解決するのかといったことです。

2) 分析と評価の視点の明確化については、以下のような判断が求められます。

- ①どのような取組みが出来れば目にみえるような成果が得られるのか。
- ②インセンティブの効果についての検証（びん（新・洗い）価格、返却ポイント）
- ③クレート使用による効果の検証（蔵元、流通、販売、回収）
- ④資源回収ステーションでのリユース対応による変化の検証（町会、自治体）
- ⑤関連主体の連携による新たなコミュニティーづくりへの貢献度
- ⑥リユース全体の評価・効果の測定基準の設定と検証

以上の内容が、今後のリユースを推進していく上での重要な戦略課題になるものと思わ

れます。

取組みの成果とその分析・評価は大変重要にことです。これまで数多くの実施が全国で行なわれ数多くの成果も得ることができました。しかしリユースは中々前に行きません。それはなぜなのか。このことについて真剣に考えねばなりません。多容器が登場した現在、びんリユースはどこまで復活することが出来るのか、このことの最終段階に入った今、ありとあらゆる方法により現在に適応した「びんリユース」を改めて生み出すことこそ、私たちに課せられた課題であると言えます。

3) 今回のデータから幾つかの取組みによる成果が見られます。

①平成 22 年 11 月～23 年 1 月までの 3ヵ月と平成 23 年 11 月～平成 24 年 1 月を比較した内容が以下の表である。

出荷と回収などのまとめの表（比較月はいずれも 11 月～1 月）

	H22 年 (本)	H23 年 (本)	増減 (本)	比率 (%)
出荷数 (本)	102,348	96,196	▲6,152	94.0
回収数 (本)	55,961	84,210	28,249	150.5
P 箱使用社数	2	5	3	250
Rびん使用社数	37	37	-	100

- 出荷数では、出荷数では昨年比で 6%減となった。これは大震災のためと思われる。
- しかし回収は、150.5%と昨年の 1.5 倍になった。これは、具体的にどこからの回収が増えたのかの調査が必要と思われるが、回収拠点での積極的な取組みが功を証したと推測できる。
- P 箱使用メーカー数は、これまでの 2 社から 5 社に拡大することが出来た。数的にはまだまだこれからともいえるが、大きな成果であると言える。
- Rびんの使用メーカー数は、スタート前と変化はみられなかった。メーカー全体の約 60%はRびんを使用しているものと思われるが、もう一步の拡大が必要である。特に今後は大手のメーカーの協力を得ることが重要である。

②びん総量の出荷を昨年と年度で比較してみます。

R720 新びん+洗いびんの出荷数の年度比較表（22 年／23 年）

びん種	H22 年	H23 年	計	前年比 (%)
新びん	325,593	317,776	▲7,817	97.6
洗いびん	150,947	246,407	94,460	163.2
計	476,540	564,183	87,643	118.4

- びん出荷では、平成 22 年の新びんが洗いびんの約 2 倍強である。平成 23 年では、1.3 倍と洗いびん比率が差を縮じめた。新びん数が減少したが洗いびん数が昨年の 1.6 倍になったため。びん総量でも昨年の約 1.2 倍になった。この結果についても今後の詳しい調査が必要であるが、洗いびんが大幅に増えたことは大きな成果であると言える。今後に期待したい。

4. 今後の課題

平成 23 年度は、びんリユースへの想いが先行した取組みになり、中核都市(30 万人都市)としての郡山市の協力でリユースの取組みを実施した。中核都市が全国に八十数都市ある中で、郡山市は、商業の町とし福島県の経済圏として存続している。ここにびんリユースモデルを構築することの狙いは大きいものがある。しかし、郡山市は周辺地域に 60 もの酒造蔵元を構える東北地域の標準的かつ模範的な立地ともいえるところであり、全国の模範的びんリユースのモデルには格好な場所であるといえる。ここで成功を獲得することの意義は大きいといえるのである。

これまでにない、新しい「びんリユース」の取組みを提案し、地域を発展させ活性化につながる取組みの 1 つにするために、参加団体がひとつになり取組みを進めたい。

平成 24 年度以降の課題としては、次のことがあげられます。

- 1) コミュニティー毎の推進体制の強化
- 2) 蔵元、自治会・町会、消費者など参加団体毎による改善点の提案
- 3) 拠点別回収方法の評価・分析
- 4) 他のびん容器などとリユースの連携
- 5) 「コミュニティービジネス」との模索

5. 次年度に向けて

これまでの取組み(実証)とは違う、全国に先駆け新たな「リユースモデル」を目指しての郡山のびんリユースの初年度の取組みは終了した。幾つかの成果はみられたものの、課題も見えてきた。

平成 24 年度以降は、23 年度獲得した成果を基に取組みを普及・拡大することが求められる。特に東北地区に於いては仙台市を始めこれまでも独自なリユースの取組みを実施し大きな成果を得ていることもあり、今後はそれらと共有し、各地区バラバラのリユースではなく、全東北で共通のリユースモデルに発展させることが求められると考える。この東北での共通のリユースモデル構築が、全国への波及をめざした取組みとなり、各々の若干のオリジナル的な取組みはあっても基本は全国共通とすることが、多くの関連団体や各地区の消費者にとって分かりやすいリユースの取組みであり、仕組みにすることが必要であると考えからである。このことこそが、この間低迷してきたリユースの新たな復活であり、リユースの再生への第一歩であると言える。

(今後の取組み目標)

	平成 23 年度 (目標)	平成 24 年度 (目標)	平成 25 年度 (目標)
1) 取組みの範囲	基本は郡山市に限定	福島県全域に拡大	東北 6 県との連携
2) リユース対象容器	R720 びんに限定	他のリユースびんへの拡大	拡大・普及
3) 参加メーカー	メーカー 32 社が参加	メーカー 40 社が参加	メーカー 50 社が参加

4) Rびんの使用	目標 70 万本	目標 100 万本	目標 150 万本
5) Rびんの回収	目標 45.5 万本	目標 70 万本	目標 112.5 万本
6) Rびんの回収率	65%	70%	75%
7) Rびん再使用率	90%	93%	95%
8) 洗びんの使用メーカー	10 社	15 社以上	20 社以上
9) P箱使用メーカーの拡大	2 社→5 社	10 社以上	15 社以上

6. まとめにあたって

今回の取組みは、これまで実証されてきた数多くのびんリユースの実証とは違う、これまでにない「新しいびんリユースビジネスモデルの構築」を目指して取り組んだ「郡山モデル」であった。しかし、3月に推進協議会を立ち上げ、6月よりスタートしようとした矢先の東日本大地震発生でその目論見は一瞬のうちに消えかかった。だが、実証の取組みを9月以降に延期してでもやり抜くことの東北魂と意地は消えることはなかった。昨年より準備を進めてきたことを踏まえ、9月に第1回推進会議を開催し、11月の環境省のシンポジウムを開催する中で実証を開始することができた。これはひとえに、「震災から何とか立ち上りたい」という復興への熱い思いそのものである。

びんリユースの「郡山モデル」の取組みは、前途多難で出発した訳でしたが、蔵元、卸・小売事業者の方々、自治体、消費者、びん商など多くの支えでなんとか終了することができました。

しかしながら、郡山モデルは新しいびんリユースのスタートラインに立ったばかりです。びんリユースの取組みがこれからも全国津々浦々で展開され、びんリユースはくらしの变革であり、循環型社会づくりに貢献するという評価を得ることになれば幸であり、この上も無い喜びになると思います。

今後は、びんリユースの取組みが関係団体の協力により全国に広がりを見せ、町づくりに貢献し、「新しい地域づくり」へのパワーになるようになることを期待します。

来年度は、この郡山でスタートした取組みを福島県全域に拡大し、そして東北6県全域に広がることを目指して奮闘します。

びんリユースの取組みが、大震災の復興の取組みとタイアップし、リユース（再使用）文化への復権につながればと思います。

参加された関係者のご協力に深く感謝申し上げます。

2012年2月
郡山市容器リユース推進協議会
事務局長 小沢 一郎

資料1)一般消費者向けアンケート実施報告

一般消費者向けアンケート実施報告

平成24年2月15日

神戸大学 システム情報学研究科 原口春海

福島大学 経済経営学類 沼田大輔

1. アンケートの目的

- ・ キャンペーンの認知度と、キャンペーンがRびんの購入に及ぼす効果を調査する。
- ・ Rびん返却1本につき1円の寄付の有効性を観測する。

2. アンケート対象者

- ・ アルコール系飲料購入者全員。

3. アンケート取得方法

実施日時 2011年12月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日) 11:00~17:00

取得場所 イオン フェスタ店(郡山市日和田町)

配布方法 お酒コーナーにアンケートスタッフが立ち、お酒を購入するお客様にアンケート用紙を手渡し。

回収方法 レジを出た先にあるエスカレーター下にアンケートコーナーを用意。

アンケート用紙を受け取ったお客様は、清算後にアンケートコーナーで記入して回収ボックスに投函するか、お酒コーナーで受け取ってすぐにその場で書いてアンケートスタッフに渡した。

※ 当初予定していた、酒屋および宅配・コンビニでの実施は諸事情により中止となった。

4. アンケートの形式・内容

- ・ 質問項目は全対象者共通とした。ただし、日本酒以外のお客様には、どんなお酒(ビール、焼酎など)を購入したかをたずねる項目を追加した。
- ・ 基本的に選択式とし、必要に応じて自由記入欄を設けた。
- ・ 記入必須では無いことを示し、差し支えないと判断した方には、個人情報に関わる項目に記入していただいた。

5. アンケートの景品

- ・ 抽選で10名に郡山の銘酒(R720入り×2本セット)をプレゼントした。

※ 個人情報の取り扱いに配慮し、アンケート用紙に個人情報保護の旨を明記した。

6. アンケート回収結果

月日	12月3日	12月4日	12月10日	12月11日	合計
曜日	土	日	土	日	
回収	63	118	84	94	359

※ うち日本酒購入者からの回収は31枚

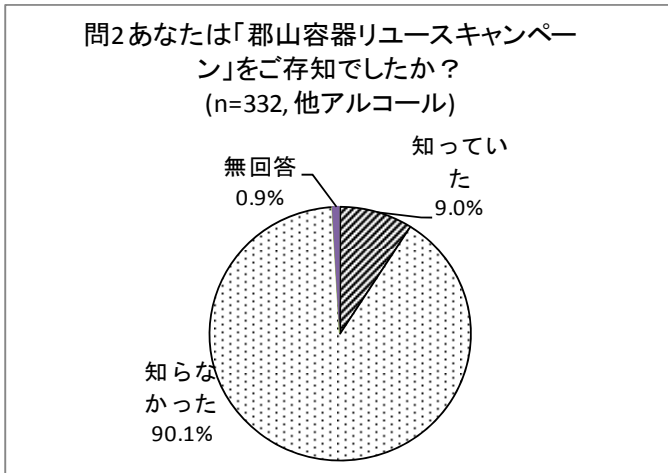
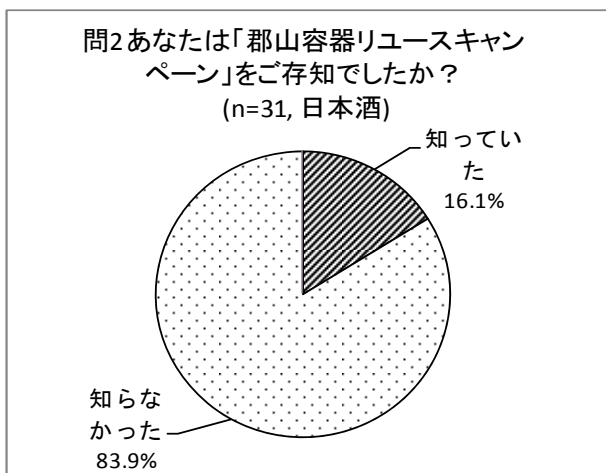
7. 今後の予定

- ・ アンケートの集計結果を環境省への報告に使用いたします。

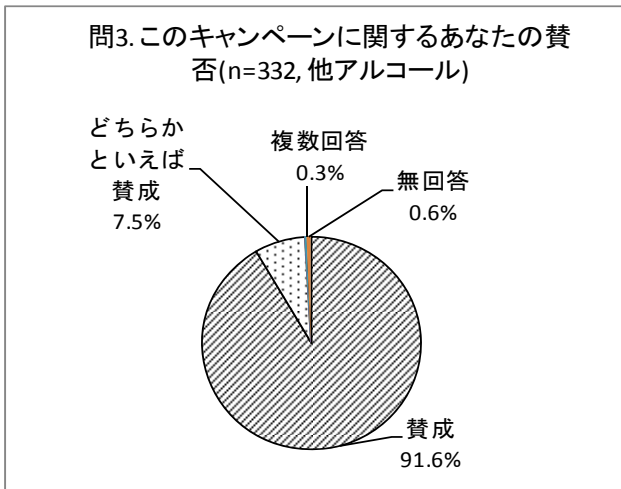
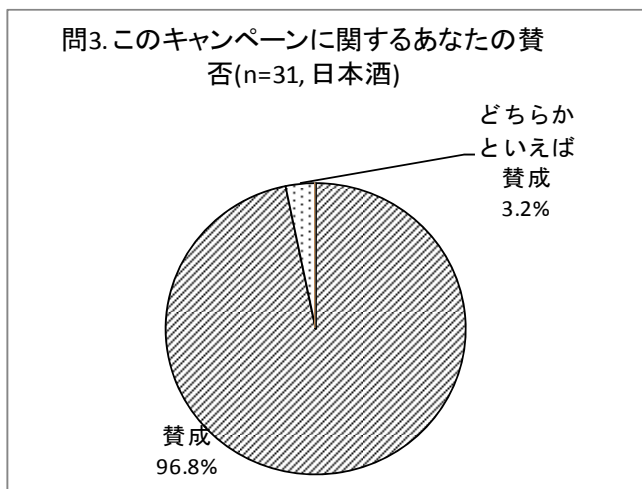
消費者向けアンケート 単純集計結果

<キャンペーンに関する質問>

あなたは「郡山容器リユースキャンペーン」をご存知でしたか？

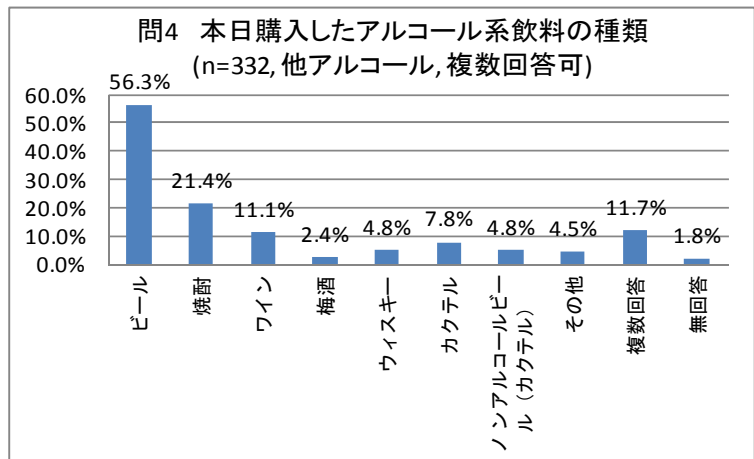


本キャンペーンでは、Rびんの返却1本につき1円(予定)が東日本大震災復興支援として福島県に寄付されます。このキャンペーンに関するあなたの賛否を教えてください。



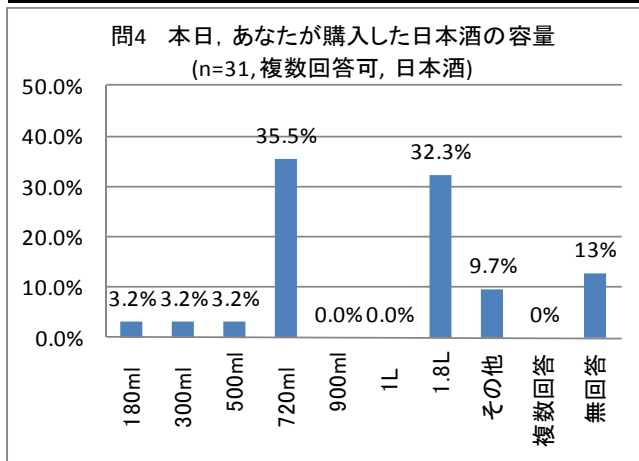
<購入した酒に関する質問(購入主)>

本日購入したアルコール系飲料の種類(他アルコールアンケートのみの質問)

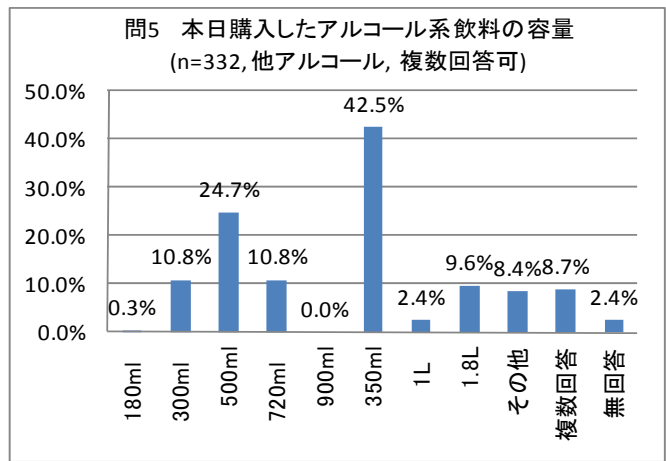


ビールがだんとつで一番多い。次に焼酎、その次にワイン、その次に日本酒が売れているといった感じか。

本日、あなたが購入した酒の容量を教えてください。

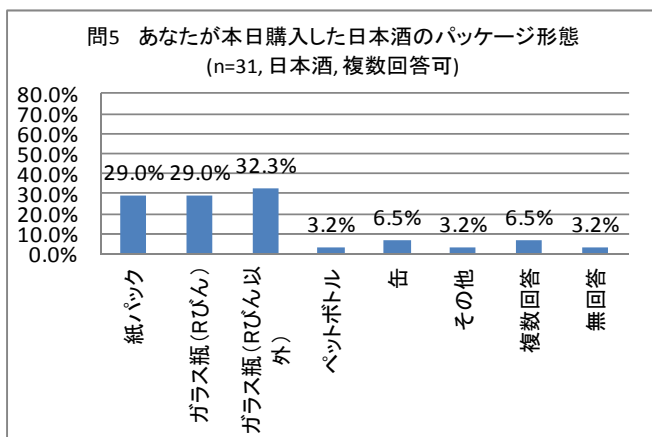


日本酒の売れ筋は720mlであることが伺える。
あとは、一升瓶が売れる

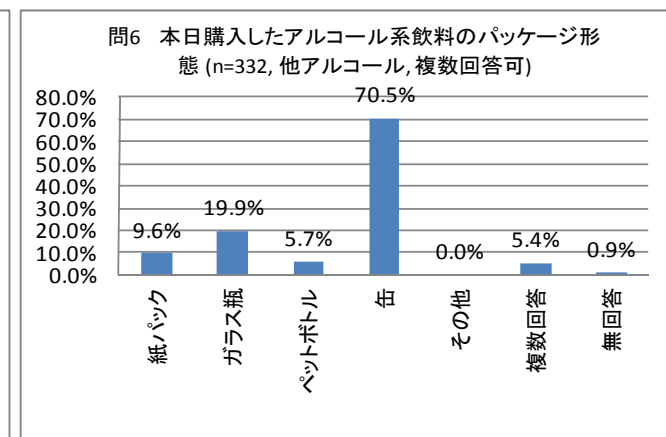


350mlが一番多く、次に500mlが続く。
←これにはビールが大半を占めていることが影響していると思われる。

あなたが本日購入した酒のパッケージ形態を教えてください。

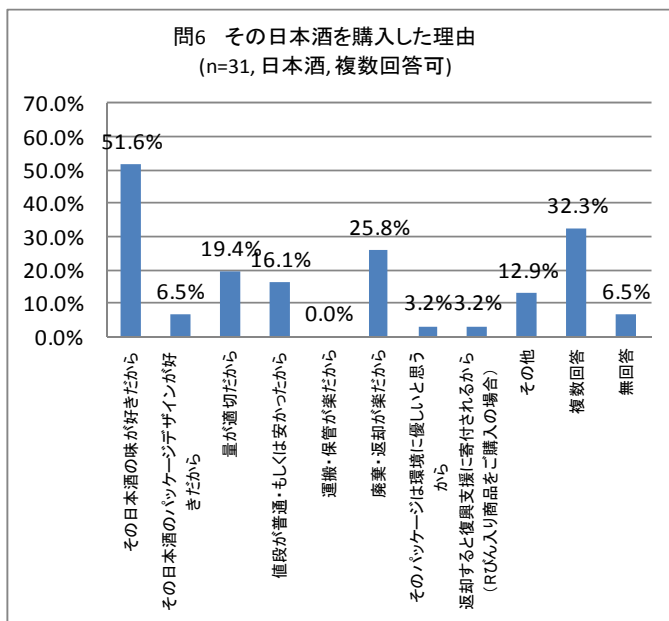


ガラス瓶がメイン
びんでは、Rびんのもの、Rびん以外のもので、ほぼ半々のよう。
紙パックも多い



ビールの影響が大きいと思う。
びんも結構多い。
紙パック、ペットボトルは他アルコールではあまりないみたい。

その酒を購入した理由は何ですか？(複数回答可)



味が好きだからで選んでいる人が多い
量、値段も商品選択のポイントになっている。

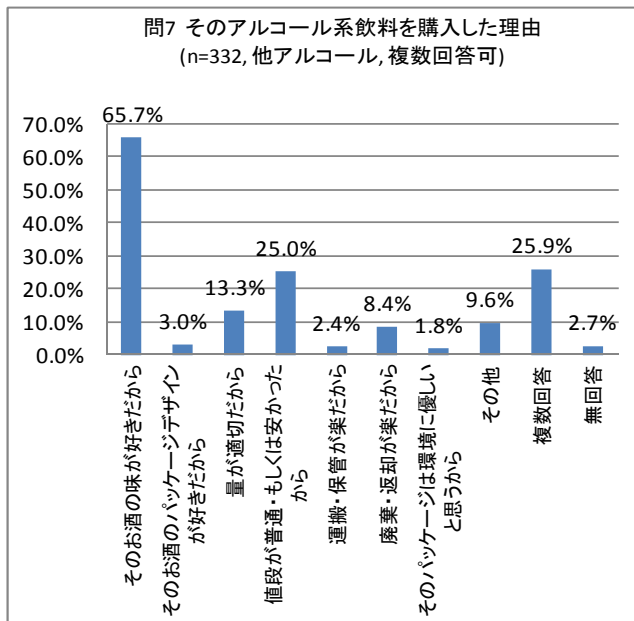
廃棄・返却も商品選択のポイントに少なくなっている

「廃棄・返却を考えて」で、購入された容器は、

紙パック	4
ガラス瓶(Rびん)	3
ガラス瓶(Rびん以外)	1
缶	1

Rびんも「廃棄・返却を考えて」が、日本酒購入の一つの理由
キャンペーン等を行うことで、こういう購買層を増やせるかもしれない。

なお、いずれの回答も、選択肢を「廃棄・返却を考えて」とした
12月10日、11日の回答であり、「廃棄・返却が楽だから」ということで
日本酒を購入しているわけではないことが伺える。



味が好きだからで選んでいる人が多い。
量、値段も商品選択のポイントになっている。

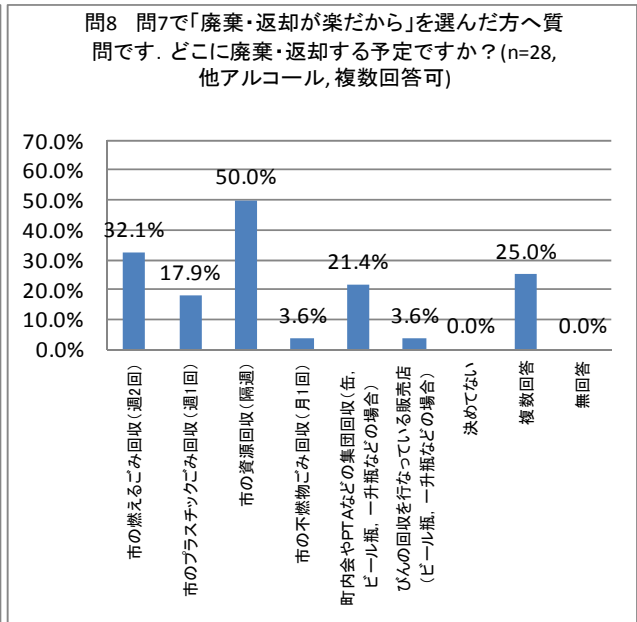
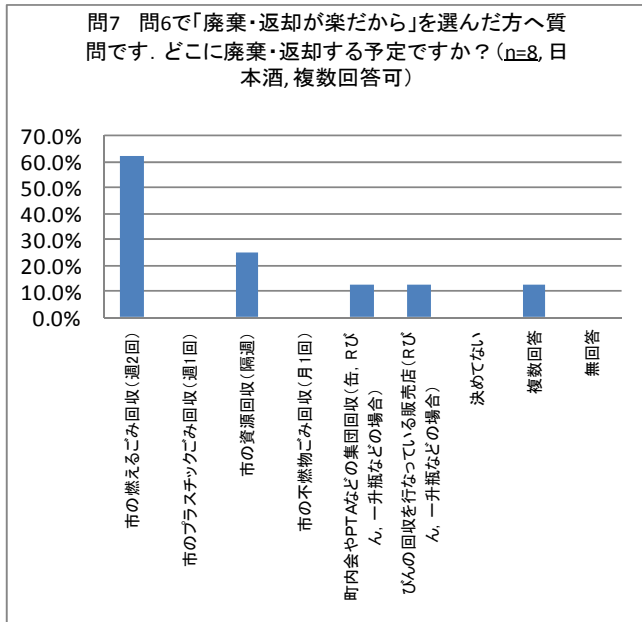
廃棄・返却も商品選択のポイントに少なくなっている。

「廃棄・返却を考えて」で購入された容器は、

紙パック	5
ガラス瓶	4
ペットボトル	3
缶	20
その他	0

<購入した酒に関する質問(返却主)>

「廃棄・返却が楽だから」を選んだ方へ質問です。どこに廃棄・返却する予定ですか？(複数回答可)

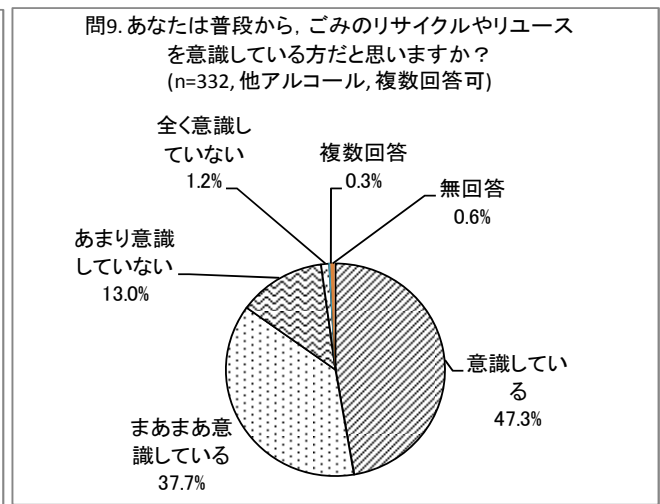
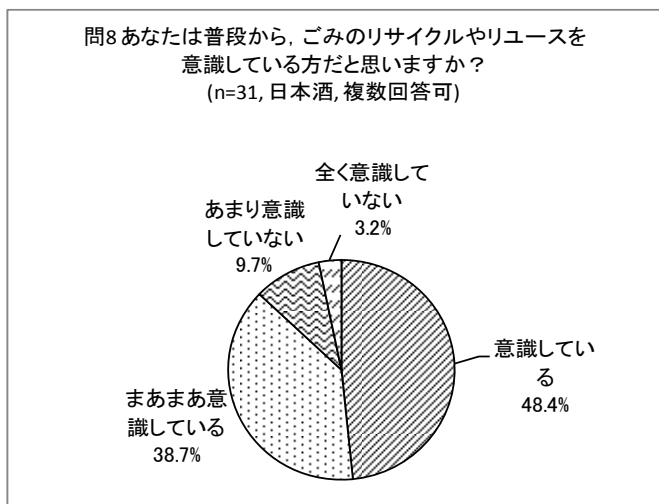


廃棄・返却が楽だからという人については、基本的には、市のゴミ収集に出す。(すべての容器を合わせて)

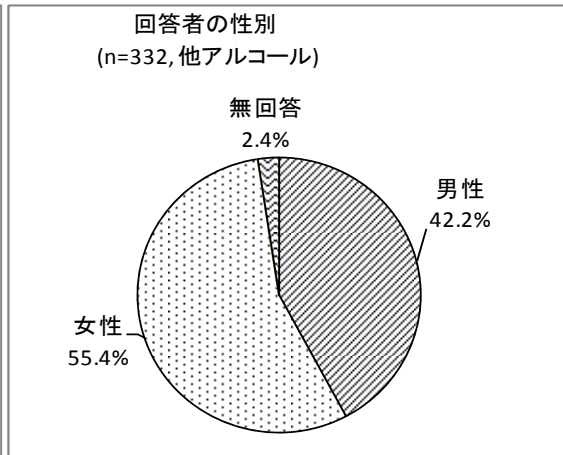
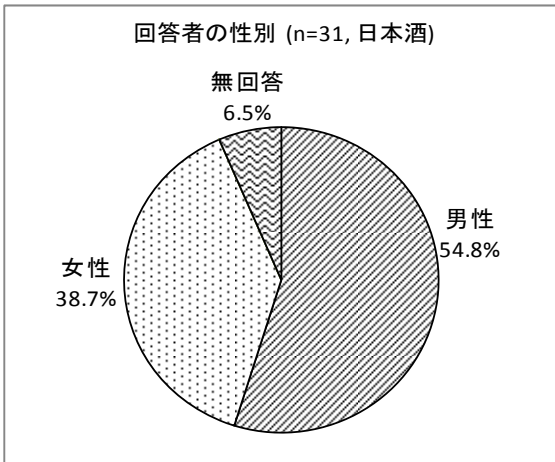
廃棄・返却が楽だからという人については、基本的には、市のゴミ収集に出す。(すべての容器を合わせて)

<属性に関する質問>

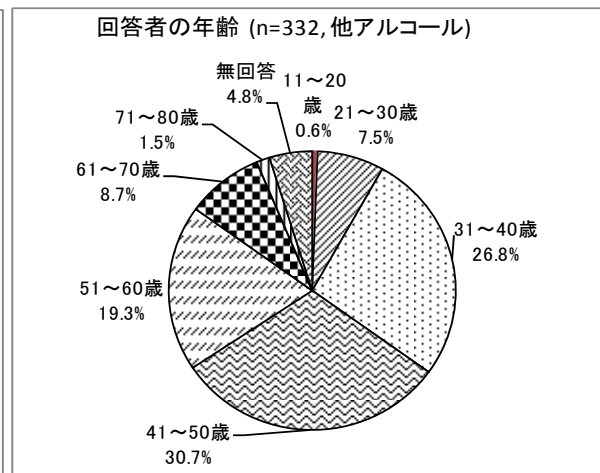
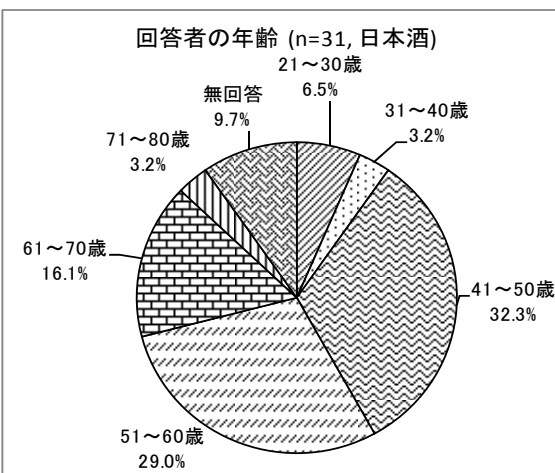
あなたは普段から、ごみのリサイクルやリユースを意識している方だと思いますか？



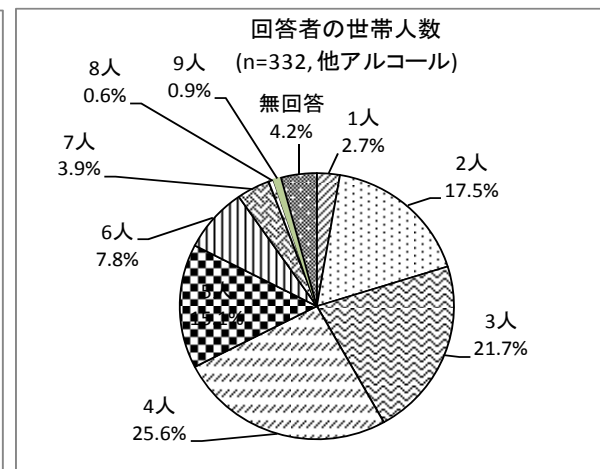
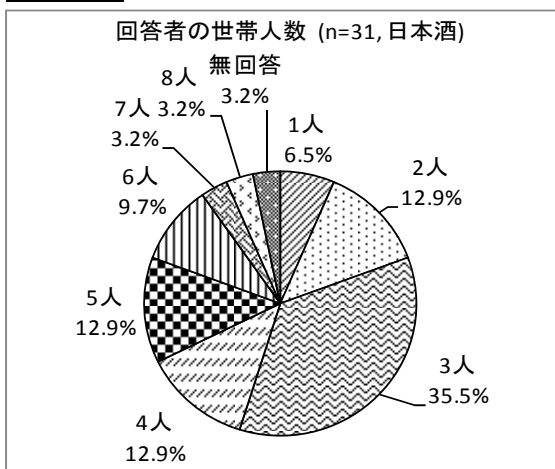
回答者の性別



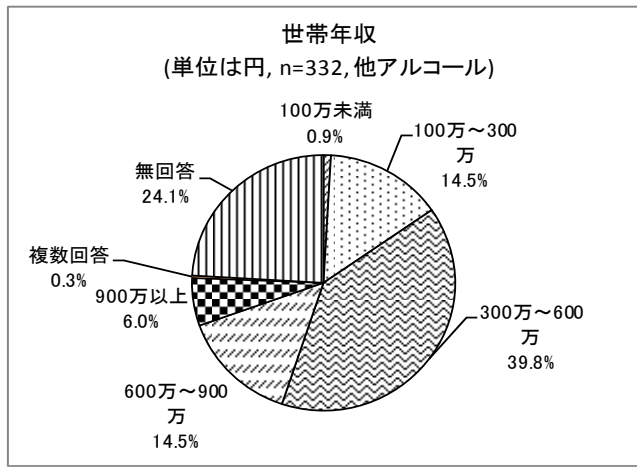
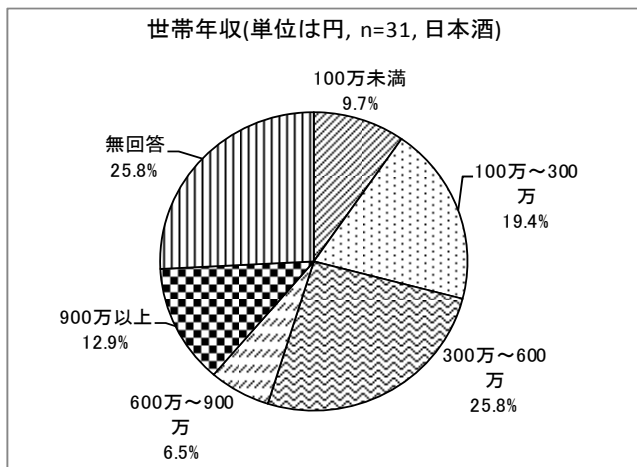
回答者の年齢



世帯人数



世帯年収



日本酒アンケート、他アルコールアンケート、両方記入の回答者は4名

郡山モデルの評価について

2012年2月15日(改訂版)

郡山市容器リユース推進協議会
2011年度 第3回 会議

福島大学 経済経営学類
沼田 大輔
numata@econ.fukushima-u.ac.jp

1

評価の概要

- (1) R720mlびんの流通量・回収量の変化を見る
 - a. 流通量の変化
 - b. 回収量の変化
 - c. 回収率の変化
- (2) 流通量の変化の要因を探る
 - a. 消費者向けアンケートを用いて

cf. 回収量の変化の要因については、アンケートの紙面の関係で、今後の課題

2

(1a) 流通量の変化を見る

単位は本	2010年11-12月	2011年11-12月
新びん	74016	56672
洗いびん	30063	67628
合計	104079	124300

←なお、これは pendingの数字

R720mlびん採用の福島県内の蔵元数は、郡山モデル実施前と変わらず、33社

3

(1b) 回収量の変化を見る

4

(1b) 回収量の変化を見る

単位は本	2010年11-12月	2011年11-12月
行政(選別工場)	0	2700
小売・卸	0	4807
廃品回収業者	0	78
協力びん商	0	4695
合計	0	12280

cf. 残りの洗いびんは、基本的に、清酒メーカー、および、県外びん商から。

・福島県への寄付予定合計額 = 1円 × 12280本 = 12280円 (2011年11-12月分)

5

(1c) 回収率を見る

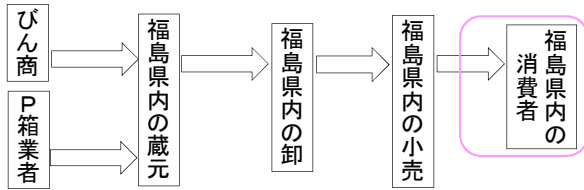
回収率 = $\frac{\text{回収本数合計}}{\text{出荷本数合計}}$

※ 回収本数合計には、行政、小売・卸、廃品回収、協力びん商、いずれからのものも含む
 ※ 出荷本数・回収本数には、新びん、洗いびん、いずれも含む

2010年11-12月	2011年11-12月
0.0%	9.9%

6

(2) 流通量の変化の要因を探る



※ 消費者が欲しいものを小売、卸、蔵元は扱うと考えられるので、消費者のR720ml入り日本酒の購入要因を探る。

7

(2b) 消費者向けアンケートを用いて

- ・単純集計結果については、資料2を参照のこと。
- ・日本酒アンケートについて
 - Rびん入り製品の購入を増やす要因とは？
 - びん入り製品の購入を増やす要因とは？
 - びんを回収している販売店に、使用済みびんを持っていくことを促すには？
 - ※ それぞれで、今回の郡山モデルキャンペーンの影響を見る。
- ・他アルコールアンケートについて
 - びん入り製品の購入を増やす要因とは？

8

抽選で10名様に郡山の銘酒が当たる!!
日本酒購入者様向けアンケート

問1 このアンケートをお受け取りになった日を書いてください。

月 日

問2 あなたは「郡山容器リユースキャンペーン」をご存知でしたか？

知っていた ・ 知らなかった

問3 本キャンペーンでは、Rびんの返却1本につき1円(予定)が東日本大震災復興支援として福島県に寄付されます。このキャンペーンに関するあなたの賛否を教えてください。

- ・ 賛成
- ・ どちらかといえば賛成
- ・ どちらかといえば反対
- ・ 反対

※理由 ()人

問4 本日、あなたが購入した日本酒の容量を教えてください。

180ml ・ 300ml ・ 500ml ・ 720ml ・ 900ml ・ 1L ・ 1.8L ・

その他()

問5 あなたが本日購入した日本酒のパッケージ形態を教えてください。

紙パック ・ ガラス瓶(Rびん) ・ ガラス瓶(Rびん以外) ・ ペットボトル ・ 缶 ・ その他()

問6 その日本酒を購入した理由は何ですか？(複数回答可)

- ・ その日本酒の味が好きだから
- ・ その日本酒のパッケージデザインが好きだから
- ・ 量が適切だから
- ・ 値段が普通・もしくは安かったから
- ・ 運搬・保管が楽だから
- ・ 廃棄・返却が楽だから
- ・ そのパッケージは環境に優しいと思うから
- ・ 返却すると復興支援に寄付されるから(Rびん入り商品をご購入の場合)
- ・ その他 具体的に()

※Rびんとは、「日本ガラスびん協会」から認定を受けた再利用可能なガラス瓶の総称です。Rびんには様々な容量・形状があります。通常びん本体がラベルに下図のような「Rマーク」が入っています。



問7 問6で「廃棄・返却が楽だから」を選んだ方へ質問です。どこに廃棄・返却する予定ですか？(複数回答可)

- ・ 市の燃えるごみ回収(週2回) ・ 市のプラスチックごみ回収(週1回)
- ・ 市の資源回収(隔週) ・ 市の不燃物ごみ回収(月1回)
- ・ 町内会やPTAなどの集団回収(缶、Rびん、一升瓶などの場合)
- ・ びんの回収を行っている販売店(Rびん、一升瓶などの場合)
- ・ 決めてない

問8 あなたは普段から、ごみのリサイクルやリユースを意識している方だと思いますか？

意識している ・ まあまあ意識している ・ あまり意識していない ・ 全く意識していない

以下、お答えできる範囲でご回答願います。

問9 あなたの性別を教えてください。

男性 ・ 女性

問10 あなたの年齢を教えてください。

()歳

問11 世帯人数を教えてください。

()人

問12 おおまかな世帯年収(税込)を教えてください(単位:円)。

100万未満 ・ 100万~300万 ・ 300万~600万 ・ 600万~900万 ・ 900万以上

問13 最後に、今回のキャンペーン、および本アンケートについてお気づきの点や感想などがあいましたら、下記に自由にご記入ください。

[]

7/1ゼントに応募する方は以下もご記入願います	
氏名	電話番号
住所	

ご協力ありがとうございました

※こちらは日本酒ご購入者様向けです※

日本酒以外のお酒もご購入の場合、よろしかったら両面ご回答願います

抽選で10名様に郡山の銘酒が当たる!!
酒類ご購入者様向けアンケート(日本酒以外)

問1 このアンケートをお受け取りになった日を書いてください。
月 日

問2 あなたは「郡山容器リユースキャンペーン」をご存知でしたか?
知っていた . 知らなかった

問3 本キャンペーンでは、Rびんの返却 1 本につき 1 円(予定)が東日本大震災復興支援として福島県に寄付されます。このキャンペーンに関するあなたの賛否を教えてください。
・ 賛成
・ どちらかといえば賛成
・ どちらかといえば反対
・ 反対

※理由 ()

問4 本日購入したアルコール系飲料の種類を教えてください(複数回答可)。
ビール・焼酎・ワイン・梅酒・ウイスキー・カクテル・
アルコールビール(カクテル)・その他()

問5 本日購入したアルコール系飲料の容量を教えてください(複数回答可)。
180ml・300ml・500ml・720ml・900ml・1L・1.8L・
その他()

問6 本日購入したアルコール系飲料のパッケージ形態を教えてください。
紙パック・ガラス瓶・ペットボトル・缶・その他()

問7 そのアルコール系飲料を購入した理由は何ですか?(複数回答可)

- ・ そのお酒の味が好きだから
- ・ そのお酒のパッケージデザインが好きだから
- ・ 量が適切だから
- ・ 値段が普通・もしくは安かったから
- ・ 運搬・保管が楽だから
- ・ 廃棄・返却が楽だから
- ・ そのパッケージは環境に優しいと思うから
- ・ その他 具体的に()

※Rびんとは、「日本ガラスびん協会」から認定を受けた再利用可能なガラス瓶の総称です。Rびんには様々な容量・形状があり、普通が通常びん本体からラベルに下図のような「Rマーク」が入っています。



問8 問7で「廃棄・返却が楽だから」を選んだ方へ質問です。どこに廃棄・返却する予定ですか?(複数回答可)
・ 市の燃えるごみ回収(週2回) ・ 市のプラスチックごみ回収(週1回)
・ 市の資源回収(隔週) ・ 市の不燃物ごみ回収(月1回)
・ 町内会やPTAなどの集団回収(缶、ビール瓶、一升瓶などの場合)
・ びんの回収を行なっている販売店(ビール瓶、一升瓶などの場合)
・ 決めてない

問9 あなたは普段からごみのリサイクルやリユースを意識している方だと思いませんか? 意識している . まあまあ意識している . あまり意識していない . 全く意識していない
※理由()

以下、お答えできる範囲で回答願います。

問10 あなたの性別を教えてください。
男性 . 女性

問11 あなたの年齢を教えてください。
()歳

問12 世帯人数を教えてください。
()人

問13 大きかば世帯年収(税込)を教えてください(単位:円)。
100万未満・100万~300万・300万~600万・600万~900万・900万以上

問14 最後に、今回のキャンペーン、および本アンケートについてお気づきの点や感想などがありましたら、下記に自由にご記入ください。

7/10に応募する方は以下もご記入ください	
氏名	電話番号
住所	

ご協力ありがとうございました

※こちらは日本酒以外の酒類ご購入者様向けです※
日本酒もご購入の場合、よろしかったら両面にご回答願います

● このアンケートは、ガラスびんの再利用をすすめる方法や課題について検討するうえで必要な情報をみやすさや同様のもの。調査の結果は統計的に処理し、目的以外には使用しません。
● 本アンケートでは、回答して下さった方から抽選で10名様に郡山の地酒を7/10にプレゼントいたします。7/10に応募する方は、アンケートの最後にある記入欄に住所氏名、連絡先をご記入ください。尚、個人情報保護法に基づき、当選者の発表のみに使用し、それ以外のいかなる利用も致しません。
● 本アンケートに関するお問い合わせは、
福島大学経済経営学類 沼田大輔研究室迄
(TEL/FAX 024-548-8423)

郡山地区 R-720びん 流通システム図

～捨てる(ワンウェイ)時代から、繰り返し使用(リユース)する時代へ～

- 従来の一升びんに替わり、中型びんで識別し易いRマーク付720mlびんを、リユースの中核にする。
- 新たなリユースびんの登場により、市民のエコへの関心を高めていきたいと考えています。
- 今回は、清酒メーカー様のご協力をいただき、清酒びんのリユースモデル事業とします。

～郡山は全国容器リユースのモデル地区として、R-720びんの全量回収を目指しています～

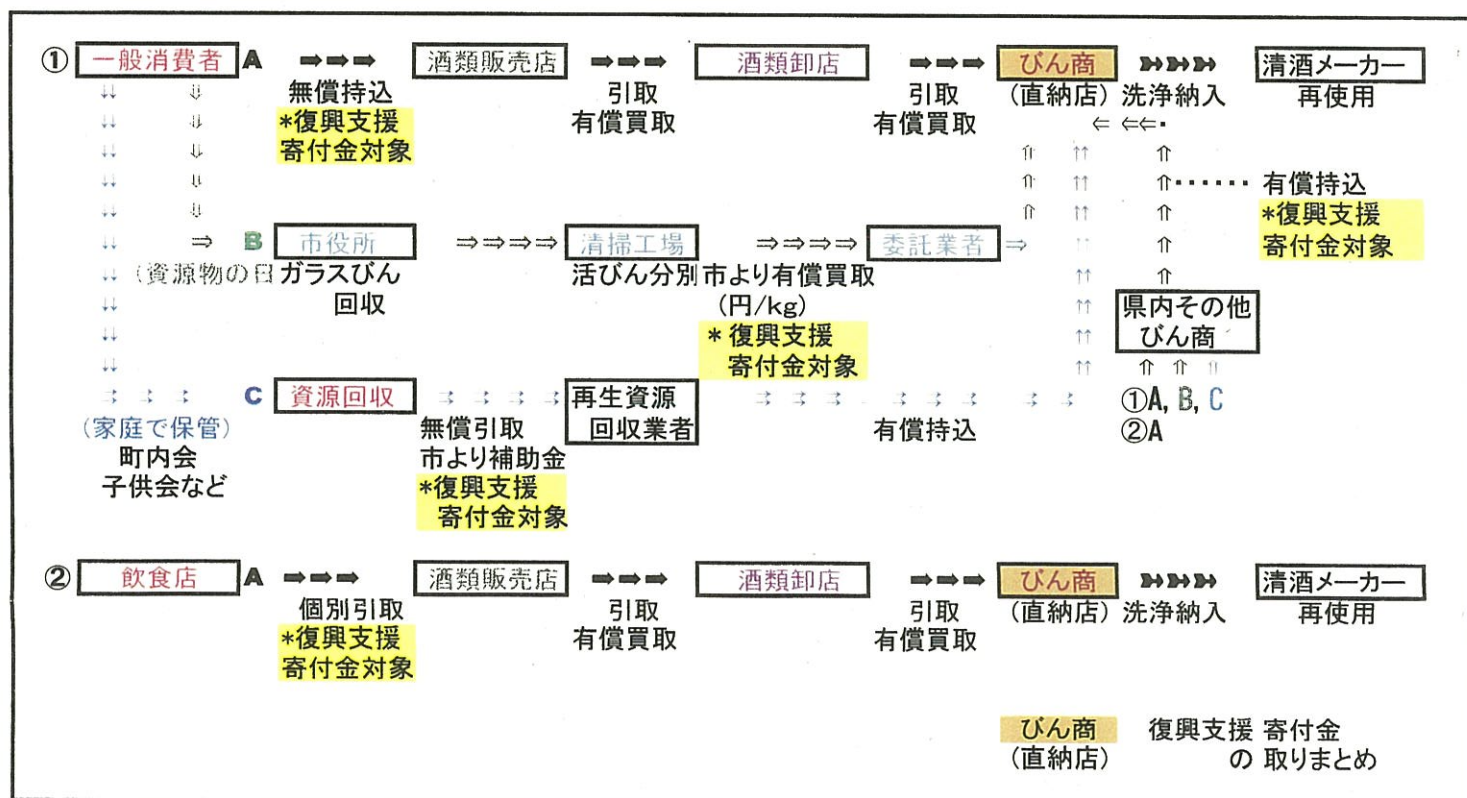
- R-720びんの流通システム(下図参照)は、現在流通している一升びんのシステムを利用します。
- ただし、720ml専用コンテナ(レンタルP箱を予定)の導入が必要です。
- 消費者は大きく分けて、①一般家庭消費者と ②飲食店・業務店 です。

- ①一般家庭消費者から発生する空きびんは、A(酒類販売ルート)・B(資源物ルート)・C(集団回収ルート)の3ルートで回収されます。
- ②飲食店・業務店から発生する空きびんは、A(酒類購入ルート)がほとんどです。

～インセンティブにつきまして～

- 一般消費者へのインセンティブは、東日本大震災復興支援への寄付金にいたします。
- 回収1本に付現金1円を寄付金とし、今年度の対象期間は平成23年11月14日～平成24年3月31日とします。
- びん商にて集計を出し、寄付金額はびん商が負担します。寄付は推進協議会名で行います。
- 次年度以降につきましては、その後の推進会議で継続協議していきます。
- 寄付先は福島県を予定し、県が行う大震災復興事業に役立てたいと考えております。

《流通システム図》



平成23年10月17日(月)
郡山市容器リユース推進協議会

R-720mlびん出荷に関する資料

(単位:本)

平成22年(平成22年1月～平成22年12月)

新びん	茶	グリーン	青	黒	合計
1月	1,094	4,800	288	1,032	7,214
2月	9,240	23,928	2,520	4,512	40,200
3月	6,648	18,788	1,356	1,356	28,148
4月	15,509	20,081	1,465	6,168	43,223
5月	8,088	5,832	3,600	6,168	23,688
6月	8,664	6,456	7,632	2,832	25,584
7月	7,776	5,544	3,816	1,320	18,456
8月	9,384	8,904	816	3,840	22,944
9月	11,520	8,904	624	552	21,600
10月	7,848	5,976	96	1,200	15,120
11月	16,008	8,616	4,824	7,560	37,008
12月	16,992	21,408	192	3,816	42,408
合計	118,771	139,237	27,229	40,356	325,593

洗いびん	茶	グリーン	青	黒	合計
1月	13,650	2,063	0	0	15,713
2月	11,136	3,768	0	0	14,904
3月	6,023	2,400	0	0	8,423
4月	12,623	372	0	0	12,995
5月	15,383	0	0	1,560	16,943
6月	4,572	55	0	0	4,627
7月	7,116	282	0	0	7,398
8月	9,164	343	0	0	9,507
9月	7,836	0	0	0	7,836
10月	20,724	1,632	0	0	22,356
11月	17,623	7,704	0	600	25,927
12月	0	4,318	0	0	4,318
合計	125,850	22,937	0	2,160	150,947

平成23年(平成23年1月～12月)

新びん	茶	グリーン	青	黒	合計
1月	6,624	6,984	6,960	2,364	22,932
2月	12,120	17,592	216	1,248	31,176
3月	6,624	13,968	1,608	1,152	23,352
4月	6,168	17,304	480	1,872	25,824
5月	8,856	27,192	5,064	2,256	43,368
6月	4,632	13,800	5,112	2,160	25,704
7月	1,848	10,440	6,168	7,248	25,704
8月	10,488	4,752	960	3,408	19,608
9月	5,616	11,880	432	1,608	19,536
10月	2,976	7,848	168	6,984	17,976
11月	4,992	12,360	2,520	9,228	29,100
12月	10,776	13,800	4,164	4,756	33,496
合計	81,720	157,920	33,852	44,284	317,776

洗いびん	茶	グリーン	青	黒	合計
1月	18,432	7,284	0	0	25,716
2月	18,228	11,801	0	588	30,617
3月	3,096	3,492	0	0	6,588
4月	7,704	7,061	0	0	14,765
5月	23,341	5,220	0	0	28,561
6月	9,756	3,492	0	1,332	14,580
7月	17,436	881	0	0	18,317
8月	8,400	1,486	0	840	10,726
9月	7,824	1,320	0	0	9,144
10月	17,944	1,224	0	237	19,405
11月	26,508	8,992	360	888	36,748
12月	21,160	10,080	0	0	31,240
合計	179,829	62,333	360	3,885	246,407

平成24年(平成24年1月～12月)

新びん	茶	グリーン	青	黒	合計
1月	2,352	15,456	8,928	6,864	33,600
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
合計					

洗いびん	茶	グリーン	青	黒	合計
1月	15,024	1,198	0	0	16,222
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
合計					

*1. 実証期間(11月～2月)の内 11月～1月の昨年対比

新びん	茶	グリーン	青	黒	合計
実証中	18,120	41,616	15,612	20,848	96,196
昨年	39,624	37,008	11,976	13,740	102,348
増減	▲21,504	4,608	3,636	7,108	▲16,152
昨年比	45.7	112.5	130.4	151.7	93.9

洗いびん	茶	グリーン	青	黒	合計
実証中	62,692	20,270	360	888	84,210
昨年	36,055	19,306	0	600	55,961
増減	26,637	964	360	288	28,249
昨年比	173.9	104.9	-	148	150.5

総合計	茶	グリーン	青	黒	総合計
実証中	80,812	61,886	15,972	21,736	180,406
昨年	75,679	56,314	11,976	14,340	158,309
増減	5,133	5,572	3,996	7,396	22,097
昨年比	106.8	109.9	133.4	151.6	113.9

*2 年間(1月～12月)比較

新びん	茶	グリーン	青	黒	合計
H23年	81,720	157,920	33,852	44,284	317,776
H22年	118,771	139,237	27,229	40,356	325,593
増減	▲37,051	18,683	6,623	3,928	▲7,817
昨年比	68.8	113.4	124.3	109.7	97.8

洗いびん	茶	グリーン	青	黒	合計
H23年	179,829	62,333	360	3,885	246,407
H22年	125,850	22,937	0	2,160	150,947
増減	53,979	39,396	360	1,725	95,460
昨年比	142.9	271.8	-	179.9	163.2

総合計	茶	グリーン	青	黒	総合計
H23年	261,549	220,253	34,212	48,169	564,183
H22年	244,621	162,174	27,229	42,516	476,540
増減	16,928	58,079	6,983	5,653	87,643
昨年比	106.9	135.8	125.6	113.3	118.4

資料7) R720びん回収に関する資料

R-720mlびん回収に関する資料

主体別回収数量(単位:P入はケース数、バラは本数)

平成22年(H22.01～H22.12)

月	小売・生協		卸店		行		政		資源回収		協力びん商		寄付金対象本数		清酒メーカー		県外びん商		合計		
	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計
01月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
02月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
03月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
04月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
05月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
06月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
07月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
08月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年度合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成23年(H23.01～H23.12)

月	小売・生協		卸店		行		政		資源回収		協力びん商		寄付金対象本数		清酒メーカー		県外びん商		合計		
	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計
01月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
02月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
03月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
04月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
05月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
06月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
07月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
08月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	3	6	42	0	540	540	21	10	548	688	1,271	0	1,133	1,133	2,040	0	1,133	25,613
12月	58	905	1,601	208	688	3,164	0	2,160	2,160	57	12	4,147	4,291	11,273	0	2,144	2,144	1,821	0	21,852	18,344
年度合計	58	905	1,601	211	674	3,206	0	2,700	2,700	78	22	4,695	4,959	12,544	0	8,572	8,572	18,955	0	227,460	17,624

平成24年(H24.01～H24.12)

月	小売・生協		卸店		行		政		資源回収		協力びん商		寄付金対象本数		清酒メーカー		県外びん商		合計					
	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計	P入	バラ	本数合計			
01月	112	756	2,100	277	558	3,882	0	2,160	2,160	0	18	874	1,090	9,232	0	440	440	0	0	5,280	847	4,348	14,512	
02月																								
03月																								
04月																								
05月																								
06月																								
07月																								
08月																								
09月																								
10月																								
11月																								
12月																								
年度合計																								

*1 〇の部分、寄付金の対象となる回収本数です。平成23年11月～平成24年1月現在で累計21,776本です。尚、寄付金の額(本数×1円/本)は平成24年3月までの累計になります。

*2 回収本数の昨年比較①キャンペーン期間中(平成23年11月～平成24年1月)の回収本数

②年間(1月～12月)の回収本数

年	小売・生協	卸店	行	政	資源回収	協力びん商	小計	清酒メーカー	県外びん商	合計
平成23年	3,701	7,088	4,860	21,776	2,880	44,412	47,292	69,068	8,572	227,460
平成24年	0	0	0	0	2,900	44,784	47,684	47,684	6,568	159,492
増減	3,701	7,088	4,860	21,776	▲20	▲372	▲392	21,384	2,014	67,968
昨年比%	—	—	—	—	99.3	99.2	99.2	144.85	130.7	142.1

年	小売・生協	卸店	行政	資源回収	びん商	小計	清酒メーカー	県外びん商	合計
平成23年	1,601	3,206	2,700	78	4,959	12,544	8,572	227,460	248,576
平成24年	0	0	0	0	0	0	0	6,568	166,050
増減	1,601	3,206	2,700	78	4,959	12,544	2,014	67,968	82,526
昨年比%	—	—	—	—	—	—	130.7	142.1	142.1

郡山市容器リユース推進協議会

R-720mlびん及びレンタル12P箱 ご採用メーカー様(件数)

キャンペーン前

	びん	12P箱
酒造	33	2
醤油	3	0
その他	1	0
合計	37	2

⇒

キャンペーン後

	びん	12P箱
酒造	33	5
醤油	3	0
その他	1	0
合計	37	5

⇒

平成24年4/1～

	びん	12P箱
酒造		
醤油		
その他		
合計		

- *1 酒造メーカー様は現在約65社ございますが、R-720mlびん使用の酒造メーカー様は全体の約50%です。
キャンペーン前後の採用率に変化がございませんでした。
- *2 レンタル12P箱の契約数はキャンペーン前が2社で、キャンペーン後は5社に増えています。
現在、さらに2社契約を検討中です。

郡山市容器リユース推進協議会

資料9) イオン郡山フェスタ店における郡山モデルのポスター掲示の様子



酒

Rマーク付720mlガラスびん



このびんを使った商品をお買い求めください。

このびんは回収します。販売店に返却するか、集団買戻回収に出してください。



環境省 5年保証書

環境省が認定するリサイクルマークを付したガラスびんは、環境省が保証する5年保証書が貼られています。この保証書は、びんが壊れた場合、環境省が保証する5年保証書が貼られています。

産日本大産買戻保証書

産日本大産買戻保証書は、産日本大産買戻保証書が貼られています。この保証書は、びんが壊れた場合、産日本大産買戻保証書が貼られています。

郡山市資源リユース推進協議会

トカードが
たる!

3.00

当店では
法律に基づき
**年齢確認を
実施中です。**

年齢が確認できる**証明書**を
ご提示いただいております。
20歳以上の年齢であること
を確認できない場合はお酒・
たばこを販売いたしません。

ホッ
麦
麦
麦

6玉にのくx4

2011 岩手県産野菜
一番搾りとれたて

第三回 郡山市容器リユース推進協議会 議事録

福島大学 大学院経済学研究科 富岡正充¹

福島大学 経済経営学類 沼田 大輔

日時 2012年2月15日 13:30～16:30

会場 福島容器(株) 2階会議室

参加者 (順不同 敬称略)

座長 ・沼田 大輔 福島大学経済経営学類 准教授(博士)

副座長・伊藤 明人 東北びん商連合会会長、福島容器(株)代表取締役社長

- 委員 ・阿部 淳 福島県酒造協同組合専務理事
・渡辺 捷栄 福島県清酒流通協同組合理事長、(有)渡辺酒造本店会長
・山口 哲司 郡山酒造協同組合副理事長、笹の川酒造(株)代表取締役社長
・本田 剛士 郡山小売酒販組合理事長、本田亀雄商店社長
・星 サイ子 福島県消費者団体連絡協議会 会長
・安斎 雄司 生活協同組合パルシステム福島専務理事 (欠席)
・中村 潤 日本P箱レンタル協議会 (株)フーズコンテナー営業部長
・西島 芳郎 日本P箱レンタル協議会 新日本流通(株)レンタル事業部課長
・徳山 成規 日本P箱レンタル協議会 (株)宝永エコナ JCR 事業部次長
・西沢 明男 三甲(株)郡山営業所所長
・宮永 真彦 全国びん商連合会会長代理、(株)宮永代表取締役
・大日方輝育 東北びん商連合会専務理事、(株)仙台真田代表取締役
・会田 一雄 東北びん商連合会福島県支部長、(株)アイダ代表取締役
・陳野 重直 郡山市陣野商店社長
・影山 敏宏 福島県再生資源商工組合郡山支部長、(株)郡資代表取締役

事務局 ・高野 均 福島容器(株)統括部長

オブザーバー

- ・今堀 洋子 環境省 我が国におけるびんリユースの在り方に関する検討会委員
追手門学院大学経済学部 准教授

¹ 本議事録の作成にあたっては、加山オブザーバーから頂いた、「郡山市容器リユース推進協議会(第3回)会議メモ」を参考にさせて頂いた。

- ・加山 俊也 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)
- ・幸 智道 ガラスびんリサイクル促進協議会 事務局長

議事録 ・富岡 正充 福島大学大学院経済学研究科 修士課程 1 年

1. 開会の言葉（伊藤副座長）

2. 座長あいさつ（沼田座長）

3. 報告事項

実証事業活動記録、数値実績の報告

- ・事業活動報告 : 高野事務局員から、活動実績について報告。

それを受けて、

- 星委員から、消費者団体連絡協議会で、次のびんリユースの PR を実施していることを追記する。すなわち、
 - 2011 年 12 月 17～18 日に、ハーモニーステーション郡山でびんリユースの PR を行った。
 - なお、2012 年 3 月 1 日～末日まで、郡山市役所 西庁舎において、同様に PR を行う予定。
 - 2012 年 4 月以降、福島自治会館でも実施予定。
- 幸オブザーバーから、回収について、行政回収の量が多いと考えている。実態はどうか。
 - これについて、高野事務局員から、行政では袋回収をしているが、その中から活きびんを抜いている。R720 を抜き取りの対象に新たに加えてもらった。
- 会田委員から、33 社が R720 を採用しており、12P 箱は 5 社。残り 28 社は段ボールか。
 - 渡辺委員から、次の回答： 段ボールである。メーカーの立場から補足すると、お客様の要望に応じて、特に高級品などは、段ボールつめにせざるを得ない。メインとなる一升びんも同様。
 - 伊藤副座長から、次の回答： 洗びんであれば、P 箱をセットで納入され、段ボー

ルとの費用の差は少ないが、新びんで調達している場合には、別途 P 箱を手当することが必要となるので、高くなってしまふ。

支出報告書について

- ・ 報告（高野事務局員から）

今年度(3月未まで)活動スケジュール

- ・ とあわせて報告（高野事務局員から）

イオン郡山フェスタ店アンケート活動の報告（沼田座長から）

- ・ 委員の都合の関係で後ほど

郡山の地酒プレゼント当選者発表報告

- ・ プレゼントは発送済み（高野事務局員から）

リターナブルびんナビへの登録について

- ・ リターナブルびんナビの紹介と、酒造メーカーの方への登録のお願い（幸オブザーバーから）
 - 阿部委員から、次の回答：酒造組合を通じて、蔵元に働きかけを行う。阿倍委員が窓口となって進める。

イオン郡山フェスタ店アンケート活動の報告（沼田座長から）

- ・ 評価方法の概要及び集計結果
- ・ 郡山モデルの評価について
 - (1) R720ml びんの流通量・回収量の変化を見る
 - (2) (1)の変化の要因を探る
 - (3)郡山モデルの費用便益分析の可能性を探る
- ・ 消費者向けアンケート単純集計結果報告

以下、 についての質問・意見：

- ・ R720 の業務用比率はどの程度か。今回は小売店から購入した消費者を対象としているが、びんリユースという観点では業務用も有望だと思われる。（幸オブザーバーから）
 - 業務比率は結構高いと考えている。卸店に協力いただければデータは把握できるのではないか。（伊藤副座長から）
 - 県内、市内での詳しいデータは分からない。全国データとしては 14%程度が業務用比率とのこと。（渡辺委員から）
 - 業務用については、今後の課題としたい。（沼田座長から）

- ・ 沼田座長から：
 - 全体で見ると、キャンペーンのことを全体 1 割の人に知ってもらっていることが成果であろう。
 - 寄付についてはほとんどの人が賛同している。
 - 購入の際、中身を最重視しているのであって、容器は最優先ではない。ただし、一部の方にとっては重視されていることも確か。
 - 消費者は空きびんにフェスタ店に返すことが楽とは思っていない。行政回収に出す方が楽との意見。

- ・ アンケートはイオンフェスタで実施したので、ビールの売上比率が高かったのではないかと。小売酒販店であれば、清酒・焼酎の割合がもっと高いであろう。（渡辺委員から）
 - この点の検討は、今後の課題としたい。（沼田座長から）

～～～休憩～～～

環境省 回収拠点マップについて（加山オブザーバーから）

- ・ 回収拠点マップの作成に関する提案と依頼
- ・ 回収拠点マップとして掲載する内容としては、小売酒販店、集団回収拠点、商工組合などが考えられる。
 - 影山委員との議論で： 集団回収拠点については、影山委員にとりまとめいただくことになった。2月中を目処に。

- 小売酒販店については、郡山市小売酒販組合を通じて把握するのが妥当であるが、事前に掲載可否の意向確認が必要。組合に加盟していても、びん回収に積極的ではない店舗もあると想定される。
- 意向確認の実施時には、返信用封筒なども準備し、出来るだけ多くの方からの返信をもらうように工夫が必要であることを確認した。
- 環境省事務局・三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングより、意向確認のための調査票（案）を作成し協議することになった。

環境省の成果発表会について（加山オブザーバーから）

- ・環境省事業の今後の予定の説明
- ・成果発表会についての説明

4. 審議事項

現状の問題点と課題

<大手スーパー、コンビニに対する対応>

(問題提起)

・ヨークベニマルさんやコンビニなどの協力をどのように取り付けるか（伊藤副座長から）

- 店頭・サービスカウンターに持ってこられた一升びん、ビールびんは引き取っているようだ。原則びんの回収はしていないと思われるが、店頭に持ち込まれたものは、仕方なく回収しているのであろう。それらは産廃・ごみとして処分をしている。（高野事務局員から）
- 東京では産廃処理する場合、一升びんで 30 円/本、ビールびんで 20 円/本がかかってしまう（産廃は重量に応じて料金がかかる）。店頭で回収され、産廃処理されているもののうち、リユースびんについては無料で引き取るということで収集する取り組みが考えられる。（宮永委員から）
- ヨークベニマルさんと情報交換した際に、レジ袋削減など、協力すれば協力するほどお金がかかってしまうとはっきりと言っていた。協力を得るのは難しいのではないか。（星委員から）
- チェーンストア協会を通じて話をいくのが良いのではないか。（星委員から）
- 市役所(行政)を巻き込んでいくことも必要（加山オブザーバーから）

<酒造メーカーについて>

(問題提起)

・R720を採用する酒造メーカー数は増えていない。採用メーカーにおいて、使用本数は増えているが、多くの蔵元に使用してもらうためにはどうすれば良いか。(伊藤副座長)

- 酒造組合として、R720の利用を促す案内文書を出すことはできる。それ以上は各蔵元の判断となってしまうので難しい。びんリユース運動が社会運動になれば、酒造メーカーも動き易くなっていくであろう。(阿部委員から)
- Rびんを使わない理由としては、特殊なびんを使用したいという思いがあるメーカー(大手メーカー含め)もある。(渡辺委員から)
- カarton入り、包装入りなどが、P箱の使用を減らしている。(渡辺委員から)
- P箱は、びんのリユースのために開発したものである。フーズコンテナでは平成9年から実施している。贈答用はリユースに向かないであろう。すべてのびんをリユースすることは難しいので、業務用にターゲットを絞っていった方が良いでしょう。(中村委員から)
- P箱はラベルが汚れないかという点を懸念される。720mlびんは比較的商品単価が高いものが多く、高級感を出している。例えば、ラベルに和紙を使われることが多い。白地に墨で書かれた場合には、P箱のほこり等が付着することが気になる。(西島委員から)

<ポスターについて>

(問題提起)

・これから先、どのように消費者にPRすべきか。(伊藤副座長から)

- 11月の新聞広告は非常に効果があった。ただし、コストも100万円単位でかかるので何度も実施するというのは難しいであろう。(伊藤副座長から)
- 市役所の広報誌と一緒に配布してもらうのが良いのではないか。(影山委員から)
- イオンでのアンケートの際にも、Rマークは分かりにくく、手作りのシールを作ってPRをした。消費者の方にリユースびんであることを認識してもらう必要がある。(高野事務局員から)
- 蔵元がラベルに記載してくれれば一番わかりやすいが。(伊藤副座長から)

<今後の展開について>

・現時点では、郡山市容器リユース推進協議会としているが、県全域に広げるという取組を進めたい。すでに実態として福島県全域で進められているところであるが。（伊藤副座長から）

➤ 4月から「福島県容器リユース推進協議会」に名称を変更。

寄付金について

- ・ 1月までで約2.2万本回収されており、寄付金換算で2.2万円程度。2～3月分が増えても最大5万円程度であろう。もう少しまとまった金額を寄付したいと考えており、3月にすぐではなく、もう少し、例えば10万円くらいになるまで待ってから寄付したい。（伊藤副座長から）
- ・ 前回の協議会で寄付先として福島県と考えていたが、寄付したことを新聞やマスコミなどにも取り上げてもらいたい。このため、どこに寄付するのが一番良いか、効果的か、良いアイデアがあれば頂きたい（例：福島民報新聞、福島民友新聞）。（伊藤副座長）
- ・ 消費者の方にとって、寄付したという感覚は持てていないであろう。消費者が実感を得られるような仕組みがないか。（沼田座長から）
- ・ 消費者から5円で買って、消費者に渡したお金を寄付してもらうか否かを消費者にゆだねるという案も考えられる。（沼田座長から）

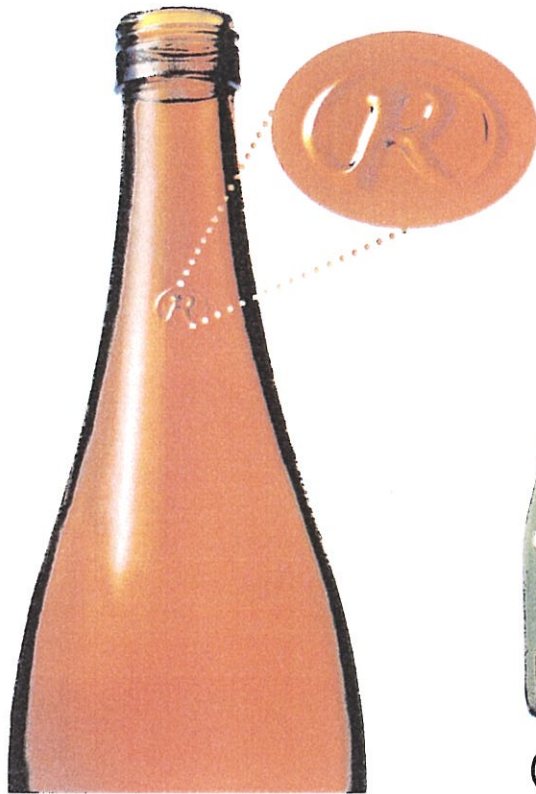
5. フリーディスカッション

- ・ Rびんを認知してもらうために、消費者の方は成分表など裏書きを良く見られている。裏書きに「環境にやさしいリユースびんを使用しています」といった記載をすればPRが効果的にできるのでは。酒造組合とびん商で蔵元に提案するのが良いのではないか。（渡辺委員から）
- ・ R720びんを使っていることでメリットが出てくるようにすることが良いのでは。Rびん自体が高いので、なかなか採用できない。強度の問題もあり、高くなる。特に300mlのRは高い。そうしたことから大手メーカーの採用がよくない。（渡辺委員から）

6. 閉会の言葉（沼田座長）

以上

Rマーク付720ml



※フロスト瓶(くもりガラス瓶)は
買入致しません。



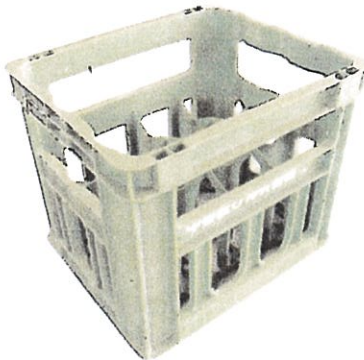
(緑)

(茶)

(青)

(黒)

12本入P箱



レンタルP箱(FC)



※流通予定

レンタルP箱(SC)



12本入榮川P箱

福島容器株式会社
福島県郡山市笹川1-141
TEL 024-945-1945
FAX 024-945-6111

Rマーク付720mlガラスびん



このびんを使った
商品をお買い求め
ください。

このびんは回収します。
販売店に返却するか
集団資源回収に出してください。



環境省支援事業

郡山市容器リユース実証事業は、環境省の
びんリユースシステム構築に向けた実証事業に
認定されました。

東日本大震災復興支援

皆様から回収したR720びんの売却代金の
一部を、東日本大震災復興に寄付いたします。

◎私たちが応援しています 環境省／福島県／郡山市／福島県消費者団体連絡協議会／福島県酒造協同組合／福島県卸売酒販組合／
福島県小売酒販組合連合会／福島県生活協同組合連合会／福島県再生資源商工組合／日本リユースびん
普及協会／ガラスびんリサイクル促進協議会／びんリユース推進全国協議会／日本P箱レンタル協議会／
全国びん商連合会／東北びん商連合会

郡山市容器リユース推進協議会

福島県郡山市笹川1-141 福島容器(株)内
☎ 024-945-1945

発行日 平成 24 年 2 月
発行 郡山市容器リユース推進協議会
発行責任者 沼田大輔
事務局 福島容器株式会社
住所 福島県郡山市笹川 1-141
問い合わせ 024-945-1945